

# 氷ノ山

氷ノ山越え登山口～氷ノ山越え非難小屋

日時 : 2003年1月19日(日)

メンバー(敬称省略) : 大塚賢一、大本誠一



氷ノ山通算3回目、すべて違う方面からの登山。でも、氷ノ山越えは11月に下りではあるが一度夏道を通っている。非常に傾斜が激しいところだ。今回はその斜面に雪がついている。苦戦を強いられそうだ。

5:00

コンビニ「ポプラ」に集合。いつも通り、牛井屋「すきや」で朝食を取り、氷ノ山へ向けて出発！

7:00

氷ノ山国際スキー場到着。スキー組と登山組に分かれて行動開始。装備は手にピッケル、足にツアーブーツ(山スキー想定)。11月に来た時、車は登山口前のトイレまで入れた。だが冬場は閉鎖されている。登山口までは地道。途中、アイゼンに履き替えて登山口まで行く。

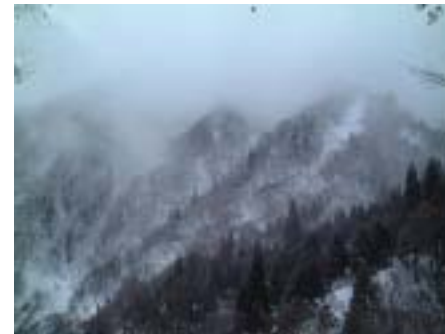
8:00

650m 登山口到着。トイレに設置してある入山ポストに入山届けを入れ、装備をアイゼンからスノーシューに履き替え出発。

始めは軽い踝ラッセルだ。しかし、前日雨が降ったのが、雪はべたべたの非常に重い状態だ。取り付き前に幅30センチ長さ2メートル、積雪30センチほどの橋があった。踏み外せば川に...5センチずつ慎重に進んでクリア。冷や汗ものだった。

11月に一度氷ノ山には訪れているので思い出しながら登るつもりだったが、全く違う景色である。どこを見ても同じような景色。同じような斜面。マーカーをチェックしながらの慎重な登りになった。しかも高度が上がるにつれて増えていく雪。

時折見える氷ノ山頂上方面はガスで覆われていた。



頂上はガスに覆われている



傾斜はキツイ

9:00

935m 地藏堂に到着。今日はこの後、氷ノ山国際でスキーをする予定であったが、ボクが手(左親指内側靭帯)を傷めていることもあり、もう少し行くことになった。しかし、ここからがさらに厄介だった。雪は更に増えていく。道は判りづらい。11月にマーカーを付けたがそれすら見つからない。わからない時は慎重に地図とコンパスで方向確認。少し行くと待ってましたと言わんばかりにマーカーを見つけることができた。



地藏堂

地蔵堂以降は直登の連続であった。時にはキックステップも必要であるほどの雪壁を登る。大塚さんのラッセル後の登りでも苦戦するほどである。



全身で前進！辛い雪壁直登

11:20

高度計は 1300m を指している。非難小屋は見えない。どうなっているんだ！？そろそろ見えてくるはずだが、ガスで非常に見にくい。

11:30

氷ノ山越非難小屋到着。急激な気圧の変化だったのだろうか、2人の高度計は同じように狂っていた。トレースがないとホントに地図とコンパスが命である。

非難小屋に着くと、・・・！！(テレマーク)スキーがあるではないか！この滑りにくそうな雪を滑ってきているのか・・・すごい。ボクの技術では到底無理だろう・・・でも、見ていると滑りたくなる。非難小屋からすぐの赤倉山なんかいい感じだろう。

昼食を食べているとガスが晴れ、太陽の光が差してきた。樹氷を付けたブナ林と太陽の光がなんともいえない。ザックを小屋にデポして撮影会に興じる。



背後にモンスター



太陽が顔を出す



ガスが晴れ、スキー場が見える



ブナの樹氷

14:07

下山開始。ここまで登ってきたトレースが着いているので大胆に下山。

15:30

氷ノ山越え登山口着。ここから駐車場までが...なんとかならないものか。16:30 帰路に着く。

総括

やはり雪山は厳しい。ツアーブーツも始めて履いたがいろいろと問題もあった。本格的な山スキーシーズンは近い。それにしても、樹氷はいつ見てもすばらしい。